平成29年度第4回CCDO広報委員会メール会議

開催日時／2018年3月14日（水曜日）

開催場所／メール会議

＜議題1＞

PDF1ページ目は、議題であるCCDO30周年記念誌の印刷見積もりをお願いした森本事務局長の資料です。

A案とB案がありますが、この他に広報委員会として違うスタイルでのご提案がありましたら提出をお願い致します。

※なお記念誌の発行に関しては、2月21日に開催されました広報委員会と新規事業委員会の合同会議で広報委員会が担当することに決まりました。

＜議題2＞

記念誌発行にあわせ、広報ツールが必要になると思いますが、どんな広報ツールがあったら良いか？ご提案くださいませ。

メンバー皆様は、上記の議題1-2につきまして3月23日（金曜日）までに提案が有る無しに関わらず本メールに「全員に返信」でご返事くださいませ。

その後、記念誌発行の各担当者を決めさせて頂きますので宜しくお願い致します。

↓ご回答頂いた皆様のご意見

CDA多田雅美さま

■議題1

B案が良いように思いますが、予算次第かと。でも、ボックスにまでしなくてもよいかと思います。また、編集作業など大変な作業となると思いますので、ボランティアNGに賛成です。

■議題2

WEBやSNSの活用くらいしか思いつかないのですが、自分自身、活用出来ていないのでこれといって意見が出なく、申し訳ありません。

CIP高須博明さま

「議題1」

A案B案どちらでも構わないと思いますが、見積もり価格と作業分担のしやすさ、また構成のするうえでの作業のしやすさなども選考の対象かと思います。担当できる適任者は多くは無いでしょうから、できるだけ負担を低減できる方向での内容吟味をすべきだと感じます。「編集に対しての無償ボランティアは不適当」のご意見には賛成です。

「議題2」

恐縮ですが、この記念誌の配布先と配布方法のイメージができてません。

各団体の会員に向けての単なる記念誌であれば、特に広報ツールを持つ必要は無いと思います。構成の内容を拝見する限りでは一般の方または企業で、この記念誌を入手して、活用できる場面が想像しにくいので、どちらかというと団体の内に向けた記念誌の正確が強いような印象を受けています。

（間違っていたらすみません）

目的を持って定めたターゲットに向けて、CCDOの地位向上や支持層の拡大を図るという大儀があるのであれば、記念誌の入手先の告知をメインにしたWeb情報や紙媒体は必要かもしれません。

JJDA松井智子さま

＜議題1＞

予算が合えばB案が良いと思います。

＜議題2＞

詳しいことは分かりませんが、より多くの方に知って頂くためにはWEBやSNSの活用が良いかと思います。

CCC中川義千さま

＜議題1＞

1冊・分冊につきましてはそれぞれの体裁に、それぞれのメリット・デメリットがあると思うので、皆さまのご意見と同じく見積もりとパフォーマンスとのバランス次第です。企画・編集・実制作についてのボランティアNGも同じです。

＜議題2＞

広報ツールにつきましてはJAGDAの中森さんのおっしゃる通り媒体形態よりも先に内容なのかな、という気がしています。

加盟団体の会員の方でもまだまだ多くの方が認識されていない、または自分が所属していることを知らないような気がします。

各団体の新入会員の方などは特にそうではないかと。

CCDOを知ってもらった際、会員をはじめ企業さまにもその魅力や活動意義、組織の成り立ちと各会員個人の立ち位置、また全体テーマの「社会とつながるデザイン」がどういうことなのかを分かりやすく伝えられるような内容であれば、どういった媒体でもいいかと思います。因にCCCでは新入会員の方に「入会セット」として過去の会報や作品集などをお渡ししていますが、一緒にCCDOの広報ツールお渡しできれば、少しは各団体の会員の方への意識付けになるのではと思っています。各所属団体に「配布用」としてCCDOの過去の作品集がどこかで管理されているのかも知れませんが、そうしたものがなければ活動内容などをまとめた分冊のみ多めに刷っておいて、もう少しカジュアルに手渡せるようにできるといいのではと考えています。

周年事業の告知に関しましては会員につきましては各団体の広報が窓口になるので、当該担当者が各団体のスタイルに合わせてSNSなりメール配信という草の根的なことしか思い至れないので申し訳ございません。

企業や一般社会に対してはCCDOサイトの活用が軸ですよね。

バナーのスライドショーや最新のお知らせなど、広報ツールとしては現状で機能を十二分に発揮できていると思います。あとは各会員が内外問わず、いかにそこへ導入してもらえるかだと思いますが、ソレに関しても万能なツールは思い当たらないので、草の根的な話しは上記同様です。すみません…。

とりあえず本年度の総会の際には、渉外委員の方からその辺の告知はさせていただきます。

CDA藤本修司さま

＜議題1＞

B案のほうが読みやすいとは思いますが、見積もり次第と思います。

＜議題2＞

記念誌は各団体内での必要部数を調べる必要があると思いますので、簡単な発刊のご案内チラシを作成し、各団体で取りまとめる方法が良いと思います。

（一般販売の有無などがわかりませんでしたので、見当違いであればご容赦ください）

DSA矢部達也さま

＜議題1＞

B案のほうが、目的別ですからかさばらず閲覧しやすいと思います。

ただ、記念誌ですからひとまとめのA案でも良いのかなと迷います。

見積もりに大差なければB案で、B案だと高いならA案でいいと思います。

編集は、適任者で新委員会を構成する点、編集担当は無償でなく有償とする点、私も同感です。

＜議題2＞

・30周年記念サイト　必要と思います。

→記念誌に辿り着かない一般の方々への広報

→記念誌より手軽に閲覧できる

・カレンダー

　30周年記念サイトで、催しを随時掲載できるようにしてはどうか。

　開催日や期間は、記事で出るだけでは分かりにくく、カレンダーなら一目で分かる。

・QRコード

　記念誌の会員作品紹介ページに各会員ごとに載せ、30周年記念サイトの同会員作品紹介ページに個別リンクさせてはどうか。サイトでは記念誌に載らない分も載せるとか、あるいは記念誌のほうは1〜2点の紹介とし、サイトで量を見せる。そのぶん記念誌のページ数を大幅に減らし、安上がりに出来ないか。

・会員作品紹介の合理化

　以下のページにリンクさせるなどで編集作業を簡略化できないか。

　リンクが無理でも、これらの作り方は分野別で人材検索が出来て分かりやすいと思いますから参考になるかと。「デザイン事務所ポータルサイト」http://www.idcn-db.jp

　「JAPAN DESIGNERS」http://japan-designers.jp

・Instagram、Twitter

　矢部はスマホでなく、これらについてよく分からんのですが・・・

　各協会が周年事業を、刻々と速報していく活用は出来ませんか？

　30周年記念サイトにも関連させて。若い世代は使いこなしていると思うので、ハッシュタグなどで周年事業の広報をしてCCDOへ若い世代を引き込めないかと。

・JDN

　一連の周年事業をここへ告知してはいかがか？

　https://www.japandesign.ne.jp

・記念誌の付録にマンガ

CCDOとは何か、各協会の活動など、そもそもわかりにくいことを、とっつきやすいマンガにしてはどうか。→今どきは行政でもマンガ化は珍しくない（参考／後述「ゴルゴ13・・・」）

→記念誌の各協会紹介ページに掲載か、別冊。また、記念サイトに掲載。

→プロでなくマンガ学科学生に協力依頼。学科も産学協同したいと思う。

　学生参画で、若い人材をCCDOへ繋げる。事前審査で品質の良い描き手を選抜し依頼。いろんな作風で各協会やCCDOが紹介されるのもおもしろいかと。

「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」

https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen\_info/golgo13xgaimusho.html

JAGDA中森浩二さま

＜議題1＞

B案の2冊分冊が予算的にも可能であれば、B案が良いと思います。

JIDAの後藤さんのメールにもございましたが、編集者に対しての対価を含めた予算取りを含め、その方向からのスタイルの決定になると思います。

＜議題2＞

・会員・協賛に向けた掲載依頼を含む案内

・30周年事業や30周年式典・記念誌発行の案内

・紙媒体やWEB、SNSを活用して告知をする

記念誌にあわせてでは無いですが各所属団体の会員の方でも「CCDOって何？」という方が多くおみえです。もっと「CCDO」の活動内容や所属することのメリットや団体としての活用法等、改めて、「CCDO」を紹介するツール（WEB上でも良い）が必要かなとは思います。

JIDA後藤規文さま

＜議題１＞について

見栄えとしては、B案が良いと思われますが、前段の「活動記録」を誰が編集するかが判断材料となります。８０ページ分の編集ですのでボランティアは酷ですし、その編集に対して対価が用意できるかという予算計画も気になります。「活動記録」という内容的にも担当できる人は限られますし、先に主担当を決めてからの判断と思います。仮にそれらがクリアになれば、B案に１票です。

＜議題２＞について

10周年／20周年誌を事例に掲載内容と費用を明記し、記念誌を知らない若い人にも分かりやすい内容での広報を希望します

＜その他＞

前回2/21の会議でも発言させてもらいましたが、記念誌における広報委員会の役割は、各団体の構成員への広報、及び記念誌用のデータなどを取りまとめる「各団体の窓口」であり、「＝編集担当」ではないと考えます。編集担当は適任者により別途チームを構成しないと負荷が大きいと思いますので、その点の議論もお願いします。